

区 分	内 容
議 題	県都まえばし創生本部有識者会議 令和８年度第１回
日 時	令和８年８月２８日（金）午前１０時００分～１２時００分
場 所	前橋市議会庁舎２階 研修室
出 席 者	【委員：１５名】 アジズ委員、大谷委員、大森委員、清水委員、田中委員、タパリヤ委員、早川委員、春山委員、藤田委員、眞庭委員、村井委員、矢端委員、山口委員、横田委員、吉田委員 【前橋市】 小川市長、細谷副市長、猪俣副市長、山中教育長、原田未来創造部長、政策推進課長、文化国際課長、観光政策課長、産業政策課長、広報ブランド戦略課長、交通政策課長、こども施設課長、政策推進係長、政策推進係員
発言内容	
原田未来創造部長	ただいまから、県都まえばし創生本部有識者会議・令和８年度第１回会議を開会いたします。司会を務めます、未来創造部長の原田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。 本年４月１日付けで有識者会議委員の改選を行いましたので、本日は新しい委員の皆様による最初の会議となります。はじめに、委員の皆様へ小川市長から委嘱状を交付させていただきます。なお、委員の任期は令和８年４月１日から令和１０年３月３１日までの２年間となります。どうぞよろしくお願いいたします。 それでは、これより委嘱状の交付を行います。私の方でお名前を申し上げますので、その場でご起立をお願いいたします。 アジズ・アフメッドさま。大谷美穂さま。清水奈保さま。田中章宏さま。タパリヤ・アムリットさま。早川博明さま。春山未央さま。大森昭生さま。藤田朱美さま。眞庭宣幸さま。村井裕佳さま。矢端幹男さま。山口善子さま。横田奈穂さま。吉田樹さま。 以上、１５名でございます。ありがとうございました。 それでは次に、県都まえばし創生本部・本部長の小川市長からごあいさつを申し上げます。
小川市長	改めまして皆様、本日はお忙しい中、令和８年度第１回県都まえばし創生本部有識者会議にお集まりいただきまして、ありがとうございます。 また、今年度は改選ということで、引き続きお願いする皆様、そして新たに加わっていただいた皆様、新しいメンバーでこの会議を進めていきたいと思っております。前橋市の未来を担う重要な議題について、皆さんの

	ご意見とご助言を頂戴できればというふうに考えておりますので、よろしくお願いいたします。 さて、この有識者会議は、第七次総合計画を進めていく上で、重要なPDCAサイクルのチェック機関として位置づけられています。前橋市では、第七次総合計画に基づいて、官民連携を軸にしたまちづくりを進めており、企業や団体との協働を通じて、地域課題の解決と新たな価値の構築に取り組んでいるところでございます。 市民の皆様が前橋に住み続けたいと思えるような魅力ある都市像の実現に向けて、各事業を実施しているところとなっております。そして、その第七次総合計画、十年の計画を進めていく上で、今年、来年、いよいよ仕上げの年を迎えるということになっております。 本日は令和7年度に実施した事業について、重点事業の進捗状況を中心にご議論をいただく予定となっております。社会状況の変化が激しい中で、持続可能なまちづくりを進めていくには、それぞれの立場から皆様のご意見、ご提案が欠かせないというふうに考えておりますので、ぜひこの後、本日の会議では率直なご意見をいただき、今後の施策の改善、また次期計画の策定に活かしてまいりたいというふうに思います。どうぞよろしくお願いいたします。
原田未来創造部長	ありがとうございます。続きまして、本日、初対面の委員さんも多いと思われますので、皆様から自己紹介をお願いしたいと思います。お一人様につき、お名前ですとか、専門分野ですとか、日頃の活動など手短かにお願いできればと思います。アジズ委員さんから時計回りでマイクリレーの形でよろしくお願いいたします。
アジズ委員	みなさん、はじめまして。NPO法人共に暮らすという団体の代表理事をしています、アジズ・アフメッドと申します。当団体は前橋市住吉町に事務所がありまして、外国にルーツのある子どもたち、若者、高校生などの学習支援、居場所づくり、また情報支援ということで、教育機会へのアプローチや、所属は前橋にありますが、県内全域の多文化共生に関する相談や、外国にルーツを持つ子どもたちの受け入れなどの相談を普段行っております。今日はどうぞよろしくお願いいたします。
大谷委員	前橋商工会議所の事務局長を務めます大谷美穂と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。前橋商工会議所は、皆様もご存じかと思いますが、地域経済団体として、商工業の発展とまちづくりと、前橋市様を含めてですね、前橋市を良くしたいという思いで、一生懸命毎日活動をさせていただいております。ぜひともよろしくお願い申し上げます。
清水委員	おはようございます。群馬県看護協会専務理事の清水と申します。今回、継続して参加させていただいております。群馬県看護協会は、県民の健康・医療・福祉の分野で、行政とともに頑張っておりますが、保健

	師、助産師、看護師、准看護師をまとめる団体として結構大きな団体で1万人の会員を持っております。どうぞよろしくお願いいたします。
田中委員	前橋市私立保育園・認定こども園協議会で委員長をしております田中と申します。昨年から引き続き、この会議に参加をさせていただいております。前橋市ではこども・子育てに関して、いろいろ政策をさせていただいているところではございますけれども、前橋市全体でこども、子育て、すべてがよくなるような政策をしていただければありがたいと思っております。いろいろ協力できるところはしていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。
タパリヤ委員	おはようございます。ネパール出身のタパリヤと申します。通訳、翻訳などの業務に携わっております。言葉の違いによって苦労している人を支えていきたいと思って頑張っております。ちょうど今年、行政書士試験に合格できまして、これから行政書士としても活動していきたいと思っております。よろしくお願いいたします。
早川委員	日本政策金融公庫の早川と申します。どうぞよろしくお願いいたします。私どもは政府系の金融機関でございます、中小企業、小規模事業者、そして一次産業向けの政府資金を扱っている機関でございます。私は8月に前橋に参りまして、その前は岩手県盛岡市にいました。まだいろいろ分からないところもありますが、よろしくお願いいたします。
春山委員	上毛新聞社の春山と申します。私は入社から10年ほど記者をしております、地域の小さな話題から県内の経済、行政などを取材してきました。産休育休を経て、今はデジタルの部門になりまして、電子版の開発や運用の関係に関わっております。今回の会議は初めてで緊張するところもありますが、生まれ育った前橋のために、少しでもお力になれるように頑張りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。
大森委員	共愛学園前橋国際大学の大森でございます。よろしくお願いいたします。うちの大学は、市役所の皆さん、商工会議所の皆さんをはじめ、地域の皆さんと一緒に、地域の未来をつくる若者を育てるということをモットーにしております。前橋の未来、若者と一緒に将来を考えていきたいと思っております。私自身がいろいろな話ができるのを楽しみにしてまいりました。どうぞよろしくお願いいたします。
藤田委員	みなさん、おはようございます。前橋観光コンベンション協会の藤田と申します。よろしくお願いいたします。わたくしの所属する前橋観光コンベンション協会は、観光や集客、プロモーションなどの業務に関わっております。基本的には、外から来る人、前橋に関わる人、前橋に対応する人と住民が関わる機会をたくさん作っていくことが仕事だと考

	えています。地域を持続可能にするためには、外からたくさんお金を入れていただいて、地域の人が地域の魅力をよく知って、来る人と関わっていただくことが必要だと思っています。皆様方からも色々な意見を伺って、この会議でも何かお役に立てればと思っています。どうぞ2年間よろしくお願いいたします。
眞庭委員	前橋市都市計画審議会から推薦いただきました眞庭と申します。都市計画審議会につきましては、都市計画法に定められた機関として、前橋市さんで定める都市計画に関して審議をさせていただいております。その他、県で定める都市計画で前橋市に関係する案件は、前橋市長へ意見照会がありますので、それに対しての審議もさせていただく機関であり、その審議会の一員という立場で前橋市と関わらせていただいております。みなさんどうぞよろしくお願いいたします。
村井委員	はじめまして。前橋市PTA連合会から参りました村井裕佳と申します。各分野の専門家となる皆様を前に大変緊張していますが、日頃から子どもたちや地域の皆さんと接している一保護者としての声をお届けできればいいかなと思っています。皆様から勉強させていただきながら、少しでも前橋市のより良い未来のために貢献できましたらありがたいです。どうぞよろしくお願いいたします。
矢端委員	J A前橋の矢端と言います。J A、前橋農協には、正組合員、要するに農地を持ち、農家をやっている人たちが約1万人、それから市長を始め准組合員として地域の応援団のような方々が約1万5千人、合わせて2万5千人の会員の方々がいます。農業の応援団という形で活動しています。小さな農家の集まりでありますので、その代表としてここに来ております。よろしくお願いいたします。
山口委員	前橋市社会福祉協議会の山口と申します。今回参加させていただきますので、よろしくお願いいたします。私の部署は地域福祉の推進、ボランティア活動などに取り組んでいる部署になります。地域で活動している方々、関係機関の方々と一緒に、地域の中で住みよい生活をどうしていくのか、孤立を防止するためにどんな取り組みをしていくかというところを進めています。今回参加させていただくところで評価の視点だけでなく、地域にどのように行政の取り組みが生かされ、つながっていくのかという視点、また、社会福祉協議会といたしましても、行政と同じ方向を持って地域の方々と進んでいきたいと、その視点を持って関わらせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。
横田委員	みなさんこんにちは。前橋の地域若者会議から参りました横田と申します。前橋の地域若者会議というのは、前橋市内の自治会などで地域だけでは解決できないさまざまな困りごとに対し、若者が活動をご一緒したりだとか、前橋市内にいる若者発信で、地域で何かやりたいこと、地

	域のための活動を実施したりしています。また、私自身も移住者でもあり、今年から兼任移住コンシェルジュとしても関わらせていただいております。どうぞよろしくお願いいたします。
吉田委員	前橋地域交通活性化協議会の吉田でございます。この協議会は、地域交通法、正確に言うと地域公共交通の活性化及び再生に関する法律という長い名前ですが、車社会である地方都市や、前橋の中において、車しか選択ができない都市だと選ばれる都市になっていかないということで、最近は公共交通の概念もシェアサイクルなども含め範疇が広がってきておりますが、そういったものをどれだけ使いやすくして、市民の皆様にも来訪者の皆様にも選んでもらえるようにするのかを考える場でございます。私は前橋工科大学にも籍を置かせていただいておりますが、もともとは福島大学の経済経営学部で教員をしております、縁がありまして3年半ほど前から前橋工科大学に籍をおいて、週の前半を前橋拠点、後半を福島拠点として動いています。今回から新たに参加させていただきます。よろしくお願いいたします。
原田未来創造部長	ありがとうございました。続きまして、市側の出席者をご紹介させていただきます。細谷副市長から順にお願いいたします。 【細谷副市長、猪俣副市長、山中教育長、原田未来創造部長、高瀬政策推進課長、神保政策推進係長が自己紹介を行った。】
原田未来創造部長	ありがとうございました。本日はこのほか、事務局職員及び関係課職員も出席しております。皆様には、それぞれのお立場から忌憚のないご意見をいただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。 それでは、議事に入る前に会議資料の確認をいたします。たくさんの資料がお手元に並んでおりますが、私の方で読み上げますのでご確認いただければと思います。 (1) 県都まえばし創生本部有識者会議委員名簿 (2) 県都まえばし創生本部有識者会議設置要綱 (3) (資料1) 第七次前橋市総合計画 令和8年度行政評価について (4) (資料2) 令和8年度行政評価シート (全 45 事業) (5) (資料3) 行政評価に対する意見等 (6) (資料4) 新しい地方経済・生活環境創生交付金 (地方創生推進タイプ) 活用実績一覧 (7) (資料5) 新しい地方経済・生活環境創生交付金 (デジタル実装タイプ) 活用実績一覧 (8) (資料6) 第3期県都まえばし創生プラン進捗管理 (9) (資料7) 第八次前橋市総合計画策定方針

	(10) (参考資料) 令和 8 年度第 1 回県都まえばし創生本部有識者会議 不足等がございましたら、挙手をお願いできればと思いますがいかがでしょうか。 どうぞよろしくお願いいたします。 続きまして、座長の選任に移ります。設置要綱の規定により、座長は市長が指名することとされております。小川市長より、座長の選任をお願いいたします。
小川市長	座長につきましては、共愛学園前橋国際大学の大森先生にお願いしたいと思います。大森委員におかれましては、昨年度も座長として円滑な議事運営にご尽力いただきました。今年度につきましても、引き続きよろしくお願いいたします。
原田未来創造部長	ありがとうございます。大森委員さんよろしくお願いいたします。座長席へのご移動をお願いいたします。それでは、ここからの進行を大森座長にお願いしたいと思います。恐れ入りますが、冒頭に一言ごあいさつをいただき、議事進行をお願いいたします。
大森委員	改めまして、ただいま座長にご指名いただきました、大森でございます。どうぞよろしくお願いいたします。新しい委員ではじめましての方もいらっしゃると思いますので、前半少し硬めの雰囲気も感じましたけれども、この会では本当にみなさま忌憚なく、総合計画ですので市に関することはなんでもみなさまからご意見を出していただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。
大森委員	それでは、次第に沿って会議を進めてまいりたいと思います。本日は大きく 3 つ議題があります。まず 1 番と 2 番について事務局からまとめて説明をいただき、その後、皆さんからご意見をいただきたいと思います。3 番目の第八次総合計画については、現在スタートしている状況や、今後どのような方向で進めていくのかという説明を受け、1 2 月にまた会議があると思いますので、その時には中身についてご議論いただくことになると思います。 では、1 番 2 番を中心に事務局から説明をお願いします。
事務局	【(議題 1) 第七次前橋市総合計画の進行管理 (行政評価) について (議題 2) 新しい地方経済・生活環境創生交付金について】説明
大森委員	ありがとうございました。それでは一回、皆さんからご意見をいただいてまいりたいと思います。質問でも意見でも結構です。今の説明に限らずご意見いただきたいと思います。事前に非常に多くのご意見を出していただいている、それに対して市の考え方も整理されていますが、こ

藤田委員	の考え方ではないのではということも当然あると思いますので、出した意見について、追加で言いたいことがあれば出していただければと思います。たくさんの委員の方がいらっしゃいますのでなるべく皆さんのご意見を伺って、全般的な質問については事務局にお応えいただくシーンもあると思いますが、意見として承って今後に活かすという形で進めたいと思います。 それではご意見を伺いたいと思いますが、いかがでしょうか。 最初に、今ご説明いただいたC評価が付いている重点事業5に関連して、少し感想に近いかもしれないのですが感じたことを言わせていただければと思います。こちらは、課題として地域で活躍する人材育成と社会教育の充実というところになっているのですが、多分、やっていないわけではないですが、C評価とされているところだと思います。 私は観光の事業に関わってまして、実は今、赤城の白樺牧場のツツジですとか、いろいろな拠点がありまして、今までの魅力を維持するためには、草を刈ったり、切ったりしなくてはいけないのですが、地元の人もだんだん高齢化していて大変なので、外から来た人に協力してもらって、維持していこうという事業をやったりしています。 それは他の地域でも、地域協議会の皆さんが、お金もかけながら、私たちの魅力を昔から引き継いでいるものとして守ってくれている土壌があります。これをもっと学校などと協力して、こどもたちと一緒にできたらいいのではないかという意見を、その協議会の皆さんからもいただいたのですが、なかなか実現できていないところがあります。イベントにこどもたちを集めるのではなくて、自分たちの地域の魅力を一緒に課題として考えて、一緒にやっていくようなことが、未来の人材育成になるのではないかと、その会議に出ながら思っていました。 2年ぐらい前から、桂萱中学校の皆さんも課題解決型のプログラムを各学校でやられていて、学校から、課題解決プログラムに来てくださいというオファーが多く来ます。それが一つひとつ、観光の事業だったり、その他のものであったりしますが、都度都度こどもたちに考えさせる現場になってしまっていて、1回で終わってしまっています。ただ、こどもたちの発想がものすごく、そのまま事業に使えるようなアイデアもたくさん持っています。それぞれはすごくいい事業なのに、つながっていてもったいないと感じました。このC評価についてはすごく未来を感じますし、もしかすると、それぞれの部署が抱えている問題を一緒に結びつけて考えることによって、A評価になる題材なのではないかと思いました。
大森委員	ありがとうございます。指標が青少年健全育成団体の関わった行事ということになっていますが、社会教育はそこに限らないと思います。例えばまちのお祭りだって多世代が関わる場になっていて、そこでこどもたちが「ああ、この地域いいな」と思うようなことなので、社会教育の

	シーンをもう少し広げて捉える方が大事ではないかと思います。学校教育の中でも社会教育が行われていく、そういう過程も広がるのではないかと思います。 市役所の皆さんもこうやっていきたいなどがあれば遠慮なくお願いします。 教育長はいかがでしょうか。
山中教育長	ありがとうございます。今おっしゃられたように、地域で行われている活動や学校との連携など、いろいろな課題がつながってくると思います。事業整理のつけ方についても、もう少し考えながらやっていく必要があるのではないかと思います。
山口委員	社会福祉協議会、山口です。先ほどのご意見の続きなのですが、私たちは町の方たちと関わる機会が多くあります。南の方の地区の町なのですが、自治会長さんですごく意識の高い方がいて、「大人はその町がふるさとではない人もいる。だけど、ここに住んでいるこどもたちにとっては、この町がふるさとだから、この子たちのためにこの町をよくしていこうよ」という気持ちを持って、自治会加入率が100%の町があります。 その町だけではなくて、ほかのいろいろな地区でも、こどもたちのために、こどもたちがこの町に住んでいてよかったねと思えるような、そういう意識を持った方がすごくたくさんいらっしゃるということを、まず皆さんに紹介したいと思います。このナンバー5の事業については、やはり私も、成果指標というものをもう少し広げてもいいのではないかと感じています。地区や市全域での取組というよりは、本当に小さい単位、町単位での取組がすごく進んでいるのではないかと思います。 先ほど紹介した町のように、一番身近なところが実感として感じられるのではないかと思うので、のびゆくこどものつどいだけではなく、今の時期であれば、夏休みの宿題を町の公民館を解放してやっていたり、そこに大学生が入ってきてくれたり、高齢者の方の集まりのところにこどもたちがいたり、町の公園に絵を飾るためにこどもたちも大人も皆が集まったりする活動があるので、そういうところに、例えば青少年健全育成団体の方も関わっていただくという形でやっていただけるとよいと思います。私たちとしても、生涯学習課や学務管理課とつながらせてもらおうかなと思いました。以上です。
大森委員	ありがとうございます。地域で暮らしている実感と、この指標が少し離れているのではないかということだと思います。
アジズ委員	先ほどお話しいただいたところにつながりますが、私たちはNPO法人として、まさに今回、夏休みにこどもたちの学習支援の取組を開催しました。地域で高校生、大学生の皆さんがボランティアに関わったり、外の公民館のエリアで高齢者の方の催しがある時に交流したりした姿

	なども実際にありました。地域の中では、民間のこども食堂をはじめ、いろいろなところで既に実施されている取組や、それぞれの団体が行っている取組がありますが、なかなかその連携やつながり自体が、そこまで取れていないというのが現実だと思います。 例えば公民館の確保が難しい時に、場所やお金がかかるので、市が免税事業として認定していくことも考えられると思います。直接的に地域で民間でやっているところもしっかり把握してみると、意外と活力のある活動がたくさんあるなというのは、私たちも実際にやってみて感じる場所でした。 もう一つ、学校や子どもと関わっていく中で、家族の形も変わってきています。お父さん、お母さんが働いていて、こどもがつながる場所がなかなか取れない中で、近い家でのつながりや、ここに来られる場所をつくるのが大事だと思います。例えば学校が施設として夏の間に開放されて、そこに地域で活動している団体が実際に行って使うことができれば、普段こどもたちが慣れている環境の中で活動することができるので、そのような視点も捉えながら考えていけるとよいと思います。 特に小学生は学区内でないと自分で活動できないので、その範囲の中でいろいろできると良いなと思います。もう一つ言えば、いろいろなところで起こっていることを、例えば大学でも地域連携事業はたくさん起こっていて、それを地域連携の担当部署がやっているだけではなく、担当部署が拾ってきて、一つの物語にしていくことも大事だと思います。市役所も自分たちがやっていることだけではなくて、みんながやっていることを集めて世の中に見せていく仕事も、すごく大事なのではないかと思います。 他にいかがでしょうか。C評価の事業にご意見が集中しておりますが関係ないところでも構いません。
眞庭委員	ちょっと皆さんと違うかもしれないのですが、教えてください。まず、多様性社会の推進で、C評価になっているところが気になっています。成果指標1については、理解度が99.1%ということで、かなり高水準が出ていると思います。多分、今回C評価になるのは、指標2のところでも地域に相談できる人がいると回答した割合が31.9%で微増にとどまっているところだと思います。これについては改善の余地があるということで、最終成果の実現に向けて改善が必要という評価なのだと思います。 ただ、逆に言うと、目標値がない中で改善の余地があるという評価になった時、どの程度までこの数値が上がった時にB評価になるのか、C評価ではなくなるのか少し不明確なのではないかと気になりました。もし考え方があれば教えていただければと思います。

事務局	ご意見ありがとうございます。眞庭委員がおっしゃる通りの評価をしているところで、率直に課題、宿題になるということだと思います。この分野は初めての評価となりまして、多様性社会の推進というものを事業として推し進める難しさに直面しています。裾野を広げるような情報提供から、実際に仕組みづくりとして気持ちが行動になるような部分に移すために、行政として何かしていくべきではないかと思っております。評価につきましては Well-being という主観的な部分で捉えているところですが、我々も市民実感までは届いていないというふうには受け止めているところです。それをどこまで実現できたらよいのかというのは、今後考えていきたいと思っております。評価としてはおっしゃるとおりで宿題とさせていただきたいと思っております。
小川市長	多様性社会の推進は、新たに見直しの中で位置付けられた部分になります。人権にしても多文化共生にしても、これから重要なテーマになっていくと思っております。人権教室の参加者の理解度は確かに高いのですが、そもそも参加してくれている学校が少ないという課題がありまして、参加してくれば理解は深まるけれども、その参加をどう増やしていくかということも課題です。 今回、新たな委員として、タパリヤさん、アジズさんにも入っていただいておりますが、特に外国人の共生のところに関しては、実際の当事者からの声もなかなか聞こえていないということがあります。そういう意味では、どういう指標がよいのか、そもそも課題があるだろうとは思っていますし地域からも上がってきておりますが、実際どういうところに政策を打っていけばよいのか、指標もどういう指標を作っていけばよいのかということのも、しっかりご意見をいただきながらつくっていかれたらと思っています。ここだけではありませんが、指標をどう立てるか是非常に大事ですので、目標の達成、実現に向けて、どういう指標をつくっていくのか、それが本当に効果を数値で把握できているのかということも含めて、いろいろなご意見をいただければと思います。
大森委員	ありがとうございます。この成果指標というのは、かなりチャレンジングだと思います。今までこういう事業は、人権講座に来た人の数や回数などで、それがどう変容したかどうかで見ていたと思います。行政の指標で30%くらいの指標が出るのは滅多にない、すごいチャレンジングなので、ベースとなる最初の目標値のその後の目標値を設定して、まずは40%いくのだというような目標設定があってもよいのではないかと思います。それを我々がどう評価していくのか、そこに新しいチャレンジを感じます。
横田委員	先ほどの指標の話の流れで、気になっていたことがあります。この事業に限らず、参加人数などで評価していたものについて、継続することで新たな指標が必要になるということは、まさにその通りだと思います。

	た。社会教育や学びという時に、新たに学ぶことも大きいですが、継続して学ぶことも非常に重要だと思います。 例えば、継続的に参加されて、継続的な学びにつながったかという指標や、地域の方で初めて参加された方がどのくらいいるかという指標も考えられると思います。これだけ事業の数や接点が多くある中で、それをうまく周知するなど、多世代が関われるように関係を深めていきたいというのであれば、少しブレイクダウンした指標を持つとよいと思います。この事業は継続の参加者は多いが新規が難しい、あるいは新規は少ないが継続している、ということが分かれば、より良い効果を発揮すると思います。 大森委員 すごく大事な視点だと思います。なかなか難しいかもしれませんが、それこそデジタルを使うことで分かることもあると思います。全庁でも検討していただければと思います。とてもよいご意見だと思います。継続の問題がありましたけれども、結局、来てくれる人は何回も来てくれるけれど、来てくれない人は一貫して来てくれないという問題もあります。 アジズ委員 外国人の定着や共生推進、多様性に関する件です。私は今、前橋でNPO法人として取り組みをしていく中で、外国人世帯といろいろな視点から関わっていますが、まずはやはり個別化しながら考えないといけない課題であると捉える必要があると思います。群馬県の他の地域と比べても、前橋は留学生が特に多いと思います。留学生は多くが20代で、地元企業への就職やマッチングの事業などが考えられると思います。 ただ、10年前、20年前に来日して定着した方は、今は30代、40代で子育て世代になってきています。そうすると、こどもの学校での教育へのサポートや、地域のルール・生活に必要な情報のガイドブックなどが必要になってきます。この前実施したプロジェクトでは、前橋市内の外国にルーツのある高校生を地元企業へインターンシップのような形で連れて行きましたが、そういう会社が地域にあることをまず知らないということがあります。群馬県の方でもやっている高校生のインターンシップ事業では関心のある高校生は参加するのですけれどもそうじゃない方々や一歩ハードルを感じる方はすごく多いです。 外国人の問題といっても、地域ごとにそれぞれ住んでいる方の特性や生活スタイル、年齢、職業、在留資格のあり方が違います。そういったところをもう少し分析していく必要があると思います。 留学生へは学校へのアプローチで情報提供は可能だと思いますが、地域に住んでいる方へのアプローチは、直接つながっていく以外にも、こどもが学校に通っている場合は学校を通じるなど、いろいろな視点が必要だと思います。 一人ひとり、人や家族のあり方が全然違うので、属性を絞ってひとくくりにしなないことが大事です。そこを個別化しながら、いろいろな視点から方向性を考えていければよいと思います。
--	---

矢端委員	初めて参加させてもらって、今ずっと聞いていて思ったのですが、私の子どもの時代には、今のような外国人のことにに関してどうするという状況はありませんでした。地域の中で、学校以外の活動も、ほとんどこどもたち自身でやっていました。村の中のこどもたちを集めて野球チームを作るようなことも、全部こどもがやっていて、大人はほとんど関わっていませんでした。PTAはもちろんありましたが、今のように全部がシステマティックに整っているわけではありませんでした。 もう一つ、当時は養護学校もあまりなく、障害のある方やいろいろな事情を抱えた方が村の中にたくさんいて、それが自然でした。今で言う共生のようなことは、初めから自然にあったのだと思います。それがだんだん区別され、分けられるようになっていった。もちろんその方が効率がよい面もありますが、昔は、介護や子育ても、地域や親戚、近所の人との関わりの中で行われていた時代だったと思います。今は、それが何十年かけて崩れてきたものを、公の組織でもう一回構築し直そうとしているように感じました。 お祭りも、昔はとてもにぎわっていましたが、やろうとする人がいなくなった、元気がなくなったと思います。夏の神社のお祭りに関連して自治会が参するようになって自治会が音頭を取るような形式が何年か続いていました。最近、地域のお祭りで、若い人たち、子育て世代の人たちが一生懸命やっていて、その中にこどもたちもいて、私たちの世代はもう見守る側になっていると感じました。逆にそれはすごくいいなと思っています。 イベントになると特に若い人たちは出てきてくれる。イベントをうまくやるのがよいのかもしれませんが。音頭を取る人たち、嫌いではない人たちが何人かいて、その人たちに一生懸命やってもらおうと、社会が成り立っていくのかなと思います。 外国人の方も、これほど増えるとは想像していませんでした。今は前橋でもコンビニに外国人の店員さんやお客さんが普通にいて、しっかり働いている姿を見ると、前橋も国際化が進んでいると感じます。ただ、一人ひとり、生まれ育ちも違うので、問題はすべて違うのだろーと思います。そのところを担当者が丁寧にやっていけるとよい社会になっていくのではないかと思います。 J Aにも各支所があって、戦後間もなく農協ができた時に、小学校や地域の中心に近いところに施設が作られてきた経緯があります。それぞれの支所で地域に貢献する事業があり、参道の草刈りや、日曜日の行事への参加、お祭りなど、地域に関わる活動も行っています。そういうことをこつこつやっているということはお伝えしたいと思います。
大森委員	ありがとうございます。今の話を聞いていると、高度流動社会という中で、人が仕事に合わせる時代になっている中で、改めてコミュニティの方を少し意図的に作り直さないといけないということだと思います。

早川委員	私は8月に来たばかりなのですが、県庁所在地ということで利便性があり、自然も近いので、非常によいところだと実感しています。まだ前橋のことを十分に分かっていないので、初歩的なところで教えていただきたいのですが、どの市町村も人口減少対策として、住民に住み続けてもらうこと、新しい住民に来てもらうことに取り組んでいると思います。その中で、前橋市が他の市町村に比べて、こういうところが強い、あるいはこういうところが弱みだという特徴的なことがあれば教えていただきたいです。強みをさらに生かすことと、弱みを補うことの両方が大事だと思いますが、財源が限られている中で、優先順位や方向性をどう考えているのか伺いたいです。
小川市長	前橋の現状という意味では、来ていただいた印象の通り、自然が豊かで住みやすい場所だと思っています。医療環境も整っていますし、農業も一生懸命頑張っていて、食べ物もとてもおいしいので、実際に前橋に住んだ方は、このまちを大変気に入っていただけているのではないかと思います。私も移住者の立場ですが、外から来て前橋を気に入って住む人も非常に多いと思います。 ただ、若者の定着が課題だと言っているのは、高校を卒業した時、大学を卒業した段階で、東京が近いということもあって、若い世代を中心に都内に出ていってしまう。特に女性が出ていったまま戻ってこないという傾向は、地方都市共通の課題としてあります。若い人たちに地域のよさを知っていただき、一度出てまた戻って来られるようなまちにしていきたいと思っています。そのためには、地域の魅力を若者にもしっかり伝えること、また働く場所がなければ戻ってきてくれないので、魅力的な企業をどう若い人たちに知ってもらうかということに、もう少し力を入れていきたいと思っています。 一方で、若い人が住むにはよいところも多いのですが、車がないと大変不便だということもあります。免許を返納した高齢者の皆さんが少し住みづらくなってしまうという現実もあるので、公共交通をどうしていくか、また交通分野に限らずまちづくりとして、究極的にはそんなに移動しなくても、自分が住んでいる地域で日々の暮らしが完結するような、コンパクトなまちづくり、暮らしあつてのまちづくりのようなものを市内各所でつくっていければよいと思っています。土地利用やまちのまとまりのあり方、生活拠点をどうまとめていくかも、これからの取組として大きなポイントになると思っています。 また、細かい生活面での課題はたくさんありますが、大事なのは気持ちの面で、前橋はいいところだということを、市民の皆さんが自信を持って言えるようにすることだと思います。市外から来た人は前橋はよいところだと言うこともありますが、もともと住んでいる市民の方が、前橋なんて何もないと言ってしまうこともあります。地域のよさを市民一人ひとりが感じ、言葉にして発信していくことも大事です。今、前橋市のファンを作っていこうという新しい取組も始めているところで、これからPRも含めて動かしていきたいと思っています。このテーマは

清水委員	発言したい人がたくさんいると思いますので、もし前橋の人口減少対策にこういうものが必要じゃないかということや、こういうことがもっと発信できるのではないかというご意見があればこの場でいただくと私たちとしても心強いです。 先ほどの市長のお話の若者の定着ということで、看護大学生たちの半数が都内に出てしまう現状について、なんとか群馬にいてもらいたいと思っております。奨学金を借りている方が非常に多く、看護の分野でも8割ぐらいの学生が借りており、返済に困っている状況があります。その辺の支援をしていただき、群馬県に定着することにつなげていただけると、若者が戻ってくるのではないかと思います。お金の問題は大きな問題だと思っておりますので、その点も検討していただければと思います。 もう一つ、C評価とは別ですが、もっと進めてほしいということで、ナンバー9の妊娠・出産への支援に関することです。これは自分の専門分野でもありますが、プレコンセプションケアといって、いろいろなところで取り組んでいただいています、これを全ての学校でしていただきたいと思っています。今の若い子は、特に痩せている人がとても魅力的だという評価がされる傾向がありますが、それにより今後妊娠する時に困ってしまうことが多くなっています。それが不妊症等につながってしまうので是非ともすべての学校で実施していただきたいです。 プレコンセプションケアは女性だけの問題と捉えている人が多いのですが、男性にも大事です。若い方だけでなく更年期の方にとっても非常に重要です。いろいろな職場で更年期のことを教えてもらうことは男女ともに必要で、ご夫婦であれば女性の身体の大変さを知ること、優しい気持ちになれることもありますし、女性も受診してよかったのだと後から気づくことは良くないことです。更年期の問題は仕事の継続や就労にも関わってきます。男性にも更年期があり、人によって差はあるものの、女性よりは軽い症状であることが多いとされていますが、男性の中には知らなかったという方も多いと思います。全体的な生涯の教育として、学校だけでなく各会社でも必要なことだと思いますので、看護職を活かしてもらうということも含め、ぜひよろしくお願いいたします。
大森委員	例えば、会社の社員研修などでそういうことをやりたいという場合には、看護協会に講師をお願いすることもできるということでしょうか。
清水委員	ご紹介できると思います。みなさんにも、こうした内容を知ってもらいたいという思いがありますので、ぜひご協力しますのでご検討いただければと思います。
大谷委員	今日初めて来させていただいたので、皆様のご意見を聞いていようと思っていたのですが、産業界として、奨学金問題については方向性が変わるのかなと思いながらいろいろなところを見ております。今まで

	は、奨学金に関して雇用する企業が直接個人に対して補助をする、肩代わりをするという方向で動いていたと思います。市や県、国の補助を受ける場合に税金上の問題が発生して、企業としても奨学金をどう支援していくかが課題になっています。 最近の動きとしては、財団のようなところに企業がお金を出し合って、そこから支援する方法ができないかと模索しているということは聞いています。どの企業にとっても奨学金は働き方を考慮するときに大きなボトルネックになっていると思います。私どもの会員には中小・小規模事業者が多く、自分の会社だけで全てをまかなうのは体力的に難しいところがあります。奨学金については、そうしたことを考えています。 また、更年期を含めた健康や働き方の研修については、持ち帰って、何かよい研修ができるのではないかと考えています。今、職責別の研修などを行っていますが、管理職や若い方に対するものが中心です。一方で、60歳が見えてきた年代以上の方も、今は働き続けなければならない時代になっていますが、その部分は意外と焦点が当たっていません。若者支援は公共的にも見えやすいのですが、60歳前後の方への支援は見えにくく、本人たちも言いづらい面があると思います。研修でもそうしたところに着目しなければいけないと思いました。 別件ですが、重点事業の事業者の事業継続支援や開拓支援について、市の方と会議所と一緒に現場を見ながら政策を打っていただいていることは、現場からも大変ありがたいという声があります。非常にやりやすく、よい視点で取り組んでいただいていると感じています。 もう一つお願いとなりますが、今いろいろなことを進めていただいて、まちなかのことも含め、ご検討いただいているということはわかりますが、小規模の小売店や小規模事業者は体力がないので、この先のゴールがどうなるのかが見えないと不安が大きく体力的にも保たないです。できれば今後は市民や商店の方にも分かるようなスケジュールや目標を公表していただけるとよいと思います。スケジュールはできる限り迅速に、タイムリーに示していただけると、体力のない企業の方たちも頑張れると思いますので、よろしくお願いいたします。
春山委員	まちなかのお話が出ましたので、今後の見通しを市民に分かりやすく伝えていただくことが、今後の希望につながっていくと思います。前橋がもっとよくなっていくのだという希望や自信につながっていくところになると思いますので、そのあたりを発信していただければと思います。 若者にも分かりやすい言葉で伝えていただきたいです。新聞の購読率なども下がっている中で、地域ニュースや前橋市の予算に触れる機会も少なくなっていると思います。市からも積極的に、若い人たちにも分かりやすく発信していただければと思います。
田中委員	私は今日は子育てということで、いつも市にいろいろご理解いただき、本当にありがとうございます。人口減少や少子化というところは避

	けて通れないことで、ここ何年か出生数も少し下がりつつあるのかなと思います。ただ、その中でも子育てをしている人は必ずいますので、悩みや相談に対して、子育て支援センター、一時預かり、保育園、こども園などを相談窓口として使っていただけるとよいと思います。 先ほど外国籍の方の話がありましたが、少しずつ増えてきているという実感はあります。私の園でも外国籍の方がいらっしゃいます。もちろん全部話ができるわけではありませんが、お互いに気を使いながら、伝わらないところは翻訳アプリでやり取りしたり、園でもアプリを入れて会話をしたりしています。少しずつ園の中でも浸透しつつあるのかなと思います。難しいところではありますが、外国人の方も日本のことを学び、こちらもこうするんだよ、ああするんだよと教えていくことで、少しずつ日本のことや地域のことが分かって来ているのが現状です。 今後も増えてくると思いますが、あまり分けるということではなく、共存する形がよいと思います。区別するのではなく、地域で育てるという形で、分からないところは教えてあげることが大事だと思います。また、保育や子育ての分野でも人材不足があります。人口減少や担い手不足にも関わってきますので、協力しながら進めていければよいと思います。 また、コンパクトシティという話もありましたが、学校について、学生がまちなかを通るような構造や位置にあるとよいと思います。ここ最近ずっと高校が新しくなると郊外ばかりで、まちの中に学生が通るルートがあまりないので、少しずつ通れるような場所づくりも、まちづくりとしてよいのではないかと思います。 昔はまちを通して学校から帰る、学校に行くということがあったので、そういうものがあると活性化するのではないかと思います。
大森委員	ありがとうございます。まちなかには高校生や大学生の取り組みはいろいろありますが、日常の通り道ではなく、取り組むためにまちなかへ行くという形になっている面もあります。なかなか難しい課題ではありますが、ありがとうございます。 外国の方の保育のお話もありましたので、国際的な視点も含めて何かご意見があればお願いします。
タパリヤ委員	私はSNSを普段から使っておりまして、今回この会議に参加できるということになってから事前調査を行いました。そこで上がってきた声について申し上げます。一つ目は留学生からの声です。入学してから2年間は年金や健康保険の請求について何もないまま過ごし、卒業して就職したら、いきなり2年分の年金を払ってくださいという請求書が来る。そういう制度は外国人にとってはとても分かりにくいので、早い段階から教えていただければありがたい、そういう機会があれば非常に興味があるという声がありました。

	もう一つは女性側の声です。妊娠してから出産までの手続き、出産してから保育園までの手続きについて、日本語ではなかなか分からない。簡単に相談できる機会があまりないという声がありました。自分の母国語で相談できるような窓口があるとよいという声もあります。これは実現が難しい部分もあると思いますが、一番多かったのは、来日した早い段階から、年金制度、健康保険制度、税金制度について説明を受けられる機会が欲しいということです。私の場合もそうでした。2年間何もなかったのに、3年目からいきなり2年分を払ってくださいとなると、過去分と今の分の両方を払うのは結構難しいです。早い段階で、こういう制度があります、毎月払わなければならないものです、ということを知る機会が必要だと思います。
大森委員	ありがとうございます。そういった制度は、日本で元から暮らしていても分かりづらいところがありますし、妊娠出産までのプロセスも初めての時には本当に分かりにくいものです。大事なご意見だと思います。
村井委員	いろいろお話を聞かせていただきまして、人権のセミナーやプレコンセプションケアのセミナーなど、いろいろなセミナーがあるけれど、あまり知らないなと思いました。ぜひ私も聞いてみたいですし、子どもたちも聞いたらよいと思いました。そういった紹介を、PTAでも活用できるとよいと思います。小学校も中学校もPTAセミナーをやっているところが結構ありますが、毎年どんなセミナーを開催したらよいかが、担当になった人たちの悩みの種でもあります。あらかじめ情報があればよいと思います。 いろいろな案内はすぐるのアプリでたくさん来るのですが、親も子もアンテナをはっていないとあまり見ないで閉じてしまうことがあります。PTAセミナーなどで子どもたち全体が聞く機会を持てるように、会長会議などで紙で情報をもらえると、皆の目に留まりやすく、今年のPTAセミナーはこれにしようかなということにもつながると思います。多くの子どもたちの耳に届く機会になると思いました。
吉田委員	交通と観光の話で、少し毛色を変えてお話ししたいと思います。高齢者が移動に困るということはよく知られていますが、最近全国的に話題になっているのは、若い人も困っているということです。埼玉では20代の免許保有率が70代より低い傾向があり、東京23区になると、20代の免許保有率は80代より低く、30代も70代より低いという状況があります。車を持って自由に生活するということから、ライフスタイルや関心が変わってきているということが首都圏で起きています。 東北にも似たような傾向があり、こちらはもう少しネガティブで、金銭的な理由で車を持ってないという状況があります。福島大学の学生でも、以前は地元の高校を卒業して大学に入学すると親が車を買ってくれるということがありましたが、今はほぼなくなっています。1週間後に工科大学と福島大学の合同合宿を実施しますが、免許を持っているのが

	福島大学チームは私を含めて2人しかいないので2人でなんとか頑張って運転をして新潟まで行くという状態になっています。もしかしたら10年後は工科大も福島大と似たような状況になっているかもしれません。そう考えると、若い世代に前橋に住み続けてもらいたい、あるいは一度外に出たとしても戻ってきてもらいたいという時に、公共交通の話は重要になりますし、観光の話にも関わります。 スライドの11ページ目の「赤城山を核とした観光振興」のところに、道の駅を起点にという話がありますが、道の駅は車が前提です。比較的近くからも良い生鮮品を買うために道の駅に行くことは魅力的でよいことですが、前橋の場合そこを核としていろいろなところを巡っていただきたい考えがありますが、東京に近づけば近づくほど、若い世代ほど車を持っていない、免許を持っていないという話になると、観光で前橋に来よう、群馬に来ようという時に不利に働いてしまうことがあります。実際に福島県の観光交流協会の評議員をやっておりますが、そこで毎年1回、福島に来られている方がどういった移動手段で来られているかというところを調査していますが、車で来ている方の割合は毎年2ポイントずつ減少しています。5年前の80%が今年は70%を割り込みました。そういうことを考えると群馬・前橋も今後同じような状況に置かれるはずです。 普段の生活では車がメインであることは当面変わらないと思いますが、観光で目的地に来てもらい、いろいろなところを巡ってもらうという文脈では、車一択ではない形をきちんと作っていくことが大事だと思います。人流分析ツールを活用する際にも、何を得るのが非常に大事です。ほとんどがスマートフォンの位置情報のデータを使って人がどのように動いているかを見るということなんですけれども、車と公共交通の判別がかなり厄介です。業者さんとかかなりやりとりしながら進める必要があります。 そうした中で車で来られる方とそうじゃない方で巡り方が違うということが分かれば、どういう施策を打つべきか見通しやすくなると思います。せっかくそうしたツールを活用できる環境にあるので、有効に活用できるよう考えていただければと思います。
大森委員	ありがとうございます。非常にその通りの問題で、考えるべきところだと思います。そろそろ時間になりますので、議題3に入りたいと思います。 議事3、第八次前橋市総合計画の策定に向けた取組について、現状の報告をいただき、その後、皆さんからご意見をいただければと思います。
事務局	【(議題3) 第八次前橋市総合計画の策定方針について】説明
大森委員	ありがとうございました。これは第八次という次の計画策定に向けてということで、考え方、それから市民と共につくっていく計画であると

原田未来創造部長	いうこと、そしてスケジュールについての説明でした。これについての詳しい中身については、次の回でぜひ皆さんにたくさんご意見をいただきたいと思います。今の説明について何かご質問等がありましたらお願いいたします。 それでは、以上で議題は終了でございます。全体を通してご意見をお持ちの方はいらっしゃいますでしょうか。 それでは、本日予定されていた議題は終了ということになります。たくさんのご意見を出していただいて、本当にありがとうございます。また、今日は担当課の皆さんにもご参加いただいておりますので、発言の機会はあまりなかったかもしれませんが、委員の皆さんの意見を受け止めていただければありがたいと思います。それでは、進行を事務局にお返しいたします。 大森座長、議事進行ありがとうございました。次に、事務局から連絡をいたしますので、よろしくお願いします。 事務局に代わって私から連絡させていただきます。本日の会議録につきましては、作成でき次第、委員の皆さんに送付をさせていただいて、内容の確認後にホームページでの公表となりますので、ご承知おきをよろしくお願いします。 この点について、ご質問等はよろしいでしょうか。 ありがとうございます。本日はお手元にたくさんの資料をお配りしてしまいましたが、十分な説明時間を取れず申し訳ありませんでした。もしお時間のある時にご覧いただいて、何か分からない点や、これはどういう意味だろうということがあれば、遠慮なく政策推進課の方にご連絡をいただければ、説明をさせていただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。 それでは以上をもちまして、県都まえばし創生本部有識者会議の令和8年度第1回会議を終了いたします。長時間にわたりまして、ありがとうございました。お気をつけてお帰りくださいませ。お手元の水はぜひお持ち帰りください。よろしくお願いします。 【終了】
-----------------	--